

本願力

～横浜別院だより～

〒234-0051

【発行】真宗大谷派 本願寺横浜別院
横浜市港南区日野一―十一―八

FAXTEL
(045) 841-1343
(045) 841-1342
(http://www.yokohama-otani.com)



賀正 輪番 坂田 智亮

京都の清水寺が今年の漢字を年末に「災」と発表した。相次いだ自然災害を反映してのことだと思える。ふと

「日本の自然は非常に不安定であり、その不安定な自然と付き合う中で天然の無常という感覚を身につけていった」

「自然が与えてくれた条件の中で、人間は生きていくに過ぎない」「地球が優しい時に少しだけ人間は生きられる」

それぞれの先達の言葉を思い浮かべた。自然は大いなる恵みをもたらし、一方では災害をも常にもたらすことは自明の理である。科学技術が進歩を続けAIなるものが出現しても自然を変えることは到底不可能だ。人間はその自然の中で生死の現実をどう受容していくのかという「いのちの柔軟性」が問われているように思える。正月は、どこ

の神社仏閣も除災招福・息災延命に大忙しである。文化も経済も医学、何を

とつても、人間の生き延びる術の向上にのみに傾注されて、人間中心主義が幅を利かせていく。こんな世の流れはいつごろから始まったのであろうか。

ただ、言えることは、人間の欲望と愚

かさだけは古今東西「不変」のように思う。

「老いや病気にブレイキをかけたいとは考えない」「病を悪、健康を善とするだけなら、こんなつまらない人生はない」「長くがんと付き合っていると『いつかは死ぬ』じゃなくて『いつでも死ぬ』という感覚なんです」と言ったのは、先日亡くなられた樹木希林さんです。

年末には赤穂義士（浪士）ゆかりの川崎の稱名寺様へ遺品を観賞に出かけた。主君に忠義を尽くすという日本人独特の伝統を垣間見て心に思うことがあった。日本人の忠義・忠誠心また、葉隠れなどの思想が日本人に静かに称賛されて来た。これは、人類の歴史から言えば類似した思想はあるにせよごく少数の価値観である。しかし、どうもこの忠誠心は、日本人の底流にしみ込んで潜在化しているように感じている。もしかしたら、我々は阿弥陀様にまかせ、ゆだねること、念仏申すことの尊さをも、その土壌を背景としてその質を混同してきたのではないだろうか？南無阿弥陀仏の道は自己自身の能力で判断、完結することではない「自然（じねん）」「一切衆生と共に」が前提であり、人間存在の深い願い、つまり本願に見出されたわが身に出遇うことである。どんな一年を迎えるのか未だ先は見えていない。

生死に処して疲厭なけん。



【寒木瓜（かんぽけ）】

作 早乙女 須洋

若草色のつばみと鮮やかな朱色の花がぎっしりと咲き誇る寒木瓜。

新年の盆栽店の名物です。ライトグリーンのつばみと鮮やかなパーミリオンの花が咲き誇る

カンボケ、と書くとなにかハッキリいたしません。おもむきのある日本の伝統色を大切にしたいものです。

横浜組智廣寺門徒 早乙女須洋

浜別サンガ（門徒交流会） 発会式

十一月十一日、浜別サンガ（門徒交流会）の発会式が開催されました。浜別サンガとは、昨年実施された「元気なお寺づくり講座」の中で検討された企画です。別院門徒同士の横のつながりの回復を願い、法事以外でもお寺に足を運んでいただくため、門徒同士の交流の場を創出することを目的に企画されました。十数名の門徒が集まっていただき、実行委員体制を作り、会議を重ねて当日を迎えることができました。

本堂いっぱいの六十名の参加者が集まりました。輪番の挨拶の後、発会式のアトラクションとして、桂小春団治師匠一行による「真宗落語」が披露されました。真宗落語とは、お通夜や法事、仏具の意味やお墓の知識など、真宗や仏教の教えを盛り込んだ内容の落語です。

落語が始まると、前座、三枚目と落語家が登壇し、真打小春団治師匠による「念仏道楽」の噺が始まりました。内容は、真宗の教えに帰依した親旦那が、店の金を持ち出してお寺に寄進ばかりしていました。それで、親旦那の興味をお寺からそらすため、あの手この手で策を弄する若旦那と番頭とのやり取りですが、策を施しても親旦那の信心は変わらなかったという噺でした。参加者は自然と笑いの中から真宗の教えを頂いたように思います。発会式終了後には、研修室において懇親会が開催され、大いに盛り上がり、次回への期待を胸に会が終了しました。

（文責家本）

← 真宗落語



← 懇親会



本願寺横浜別院同朋の会 真宗本願報恩講奉仕団

十一月二十七日・二十八日と一泊二日で真宗本願報恩講奉仕団に参加しました。別院同朋の会では、以前から一度本山報恩講に参詣したいという声があつて、今回実現する運びとなりました。約一年がかりで計画して、参加者の皆さんはそれぞれこの日のために体調を整えて待つておられました。

参加者は十四名で、JR新横浜駅から新幹線で京都へ向かいました。京都に着くと、例年になく穏やかな気候で、日差しが暖かく、上着が着ていると暑いくらいでした。本山到着後、早速、和敬堂・同朋会館に入館し、昨年七月より新しくなった施設に参加者一同驚いていました。部屋に入り、荷物を下ろしていると、今回担当いただいた

補導の藤川秀行さんからご挨拶と簡単な日程説明がありました。報恩講期間中ということで、普段の奉仕団の日程より詰まった内容ということでした。十一時三十分より、結成式が三階の講堂で行われ、百十数名の参加者が一同に集まりました。真宗宗歌、正信偈が勤まると、いよいよ奉仕団が始まったと実感が湧いてきました。ここにおられる皆さん、それぞれのようないい思いをもつてやってこられたんだらうと、そんなことを考えていました。結成式終了後、昼食をいただき、オリエンテーションを行ないました。そこで、今回参加されたお一人お一人の気持ちを参加者全員で共有することになりました。続いて、記念撮影、両堂参拝を行ない、渉成園の清掃奉仕に出かけました。ほうきとちりとりを片手に持ち、渉成園の落ち葉を拾い集めました。落ち葉をかき集める作業は、思ったより大変でしたが、一心不乱に掃除を行ないました。同朋会館



→ 清掃奉仕



→ オリエンテーション

→真宗本廟（東本願寺）



に戻る途中で、御影堂門に登りました。京都三大門の一つだそうです。そして、会館に戻り、夕食をいただき、お通夜の勤行と法話がありました。座談を終えて、初日の日程が終了し、明日の結願日中の法要に備えて就寝しました。翌日、早朝より慌しく日程が進み、八時四十五分より、御影堂に入り、祖徳讃嘆の法話を聞き、結願日中に

参拝させていただきました。坂東曲を含む長時間の法要でしたが、御正忌報恩講に出遇えた歓びにそれぞれ浸っていました。法要終了後、昼食をいただき、お内仏のお給仕について、藤川補導より丁寧にお話をいただきました。最後に、二日間を終えての感想を書き、解散式が終わり帰路につきました。帰りの新幹線の中では、この二日間の出来事を振り返る様におしゃべりが尽きませんでした。報恩謝徳の志しを運ばせていただいた奉仕団となりました。

（文責家本）

二〇一八年度第三回 別院声明儀式研修会

今年度第三回目の声明儀式研修会が十二月十日に開催されました。講師の友松雅英師（東京二組西岸寺住職）を迎え、今回はテーマ「葬儀について」を学習・研鑽しました。『葬儀中陰勤行集』に沿って、詳しく、丁寧に、実践的にお話いただきました。葬儀という内容で関心が高かったのか、参加者十七名といつもより大勢でした。

（文責家本）



「神奈川四ヶ組行事予定表」

《横浜組》

【横浜組門徒研修会】

【第一回】

【日時】二月十五日（金）午後一時半～

【講師】一栗真師（大谷大学真宗学科教授）

【会場】本願寺横浜別院

【第二回】

【日時】四月十一日（木）午後一時半～

【講師】武田定光師（東京六組因速寺住職）

【会場】本願寺横浜別院

《三浦組》

【二〇一九年寺子屋】

【第一回】

【日時】二月五日（火）午後一時～

【講師】片山寛隆師

【会場】最光寺（横須賀市野比三一九五）

【第二回】

【日時】三月一日（金）午後一時～

【講師】伊東恵深師

【会場】西來寺（横須賀市不入斗町三三八）

【第三回】

【日時】四月九日（火）午後一時～

【講師】荒山信師

【会場】圓照寺（三浦市三崎四一九）

— 各法要（おつとめ・ご法話）のご案内 — 2019年1月～2月

～どなたもご自由にお参りください～

定例法話 午後1時30分より

1月9日(水)横浜組 願西寺 佐々木健太郎 師

2月9日(土)横浜組 永勝寺 田口 壽人 師

2月28日(木)別院 輪 番 坂田 智亮 師

※1月28日の定例法話は休みです。

横浜別院同朋の会

2月18日(月) 午後1時30分より

参加者の皆様とテーマを決めて、座談を中心に行います。お気軽にご参加下さい。

※1月18日の同朋の会は休みです。

修正会

1月1日(火・祝) 午前10時より

<修正会(しゅしょうえ)とは>

1年の初めに莊嚴を整え、仏恩報謝の思いをもって新しい年にのぞむ仏事です。

お屠蘇など軽食を振舞います。

ぜひご参詣ください。

春季彼岸会法要 午後1時30分より

3月20日(水)・21日(木・祝)

【法話】近藤 龍磨 師

(岐阜教区第11組廣専寺住職)

お彼岸は、浄土に還っていかれた亡き人を偲ぶと共に、自分の生活を振り返る大切な時です。

有縁の皆様におかれましては、ぜひご参詣ください。

公開講演会・小さき声のカノン上映&監督トーク
鎌仲ひとみ監督来たる!

3月10日(日)

午後1時30分～5時(受付1時より)

【上映】『小さき声のカノン-選択する人々』

<内容>福島原発事故から7年、日本でも被ばくを軽減する新しいステージが始まった。放射能についての危機感がしだいに薄れ、事故の風化がささやかれる今だからこそ、誰もが観るべきドキュメンタリー映画。

【会場】本願寺横浜別院・神奈川教化センター

【参加費】大人1,000円、高校生以下500円

上映後、鎌仲ひとみ監督のトークを行います

※参加申込は不要。直接会場にお越し下さい。

編集後記

平成最後の年が始まりました。元号が変わることをどう思い、どう考えるかは個人的な解釈によるところかと思えます。ただ、メディアが騒ぎすぎな気が個人的にはします。何かにつけて、最後、最後と…。

さて思い返すと、二〇一八年も様々な出来事、行事がありました。特に、浜別サンガと真宗本願報恩講奉仕団は初めての行事でしたので、正直、下準備が大変でした。大変だったからこそ、得るものが大きいのもまた事実です。二〇一九年はどんな年になるのでしょうか。毎年そんなことを思いながら、新年を迎えています。が、「修正会」を一月一日午前10時より行ないます。故事に「一年の計は元旦にあり。」とあります。が、ぜひ年の初めに、別院にお参りいただきたく思います。今年もよろしく願います。

(家本)